

## 平成 28 年度長野市健康増進・食育推進審議会（第 4 回）議事録（概要）

と き 平成 28 年 10 月 21 日（金）  
午後 1 時 30 分

ところ 長野市保健所会議室 A B

出席者：中村会長、村澤福会長、上條委員、北川原委員、北澤委員、佐藤委員、重倉委員、清水委員、鈴木委員、谷委員、玉井委員、玉木委員、花岡委員、宮澤委員、柳澤委員、山口委員、若林委員

### 1 開 会

2 あいさつ 田中保健福祉部長、中村会長

### 3 議 題

(1) 次期長野市健康増進計画・食育推進計画（素案）について

資料 1

資料 2

ア 基本理念・キャッチフレーズについて

基本理念「すべての市民が支え合い、健やかで心豊かな暮らしを実感できるまち  
“ながの”」

キャッチフレーズ「健やか未来都市 “ながの”」

イ 具体的な施策の展開について

ウ 第 4 章（計画の推進・評価）について

(2) 計画素案に対する市民意見の募集（パブリックコメント）について

資料 3

(3) その他

### 4 そ の 他

(1) 第 5 回長野市健康増進・食育推進審議会

・と き 平成 29 年 1 月 26 日（木）13 時 30 分～15 時 30 分

・ところ 長野市ふれあい福祉センター 5 階ホール

・議 題 次期長野市健康増進計画・食育推進計画（案）について 他

### 5 閉 会

### 6 議題における意見等

（委員）

「平均寿命と健康寿命の乖離について。長野市の報告だと男性 1.02 年、女性 2.81 年に  
対し、国の算定法に基づく国の報告だと、男性約 9 年、女性 12～13 年となっている。  
この差の期間がいわゆる不健康な期間とされ、支援や介護が必要となる。市の目標にも  
ある健康寿命延伸には異論はない。要介護の 2 以上の認定を受けた方の平均余命は 1～  
2 年と言えるのか。長野市の有病率が低ければ母体数が減るが。こういうデータは全国  
のデータと比較できるようにあるべきではないか。独自の算出方法でこれからもやって

いくのであれば注釈をいれたほうがよいのではないか。」

(事務局)

追加資料にて、平成 24 年厚生労働科学研究費補助金による健康寿命における将来予測と生活習慣病の費用対効果に関する研究班による算定方法について説明

(委員)

「国と市町村、同じ平均寿命といいながらあまりにも乖離が大きすぎる。算定方法、ものさしが違うといえればそれまでだが。」

(事務局)

「長野市がなぜこの算定方法としたのかをわかりやすく明記し、なぜ国とは違うのか注釈を付け加えたい。」

(会長)

「未成年の喫煙・飲酒の指標について。グラフにおいても中学生の飲酒率は削除するか。グラフでは残して指標では削除するというのは疑問が残る。」

(事務局)

「事務局としては、現状という意味でグラフではこのまま残し、指標の部分だけ削除するつもりでいる」

(会長)

「削除しないと何か問題があるのか。ずっと統計を取らなければならなくなり事務が煩雑になったりなど」

(事務局)

「現状につきましては、5年に1回統計をとっている。それは今後も続いていく。その中で0%、0.5%という数値は限りなく0に近いので、今後どういう評価をしていくべきかと考えた時に、なくてもよいのではないかと考えた。」

(会長)

「より大きな数値の項目を集中的に取り上げていくということですね」

(委員)

「0であっても入れたほうがよいのではないか。中学1年生女子で0.5%というとなら1000人に1人。この数字はどうなのか。目標なのだから0を入れてもよいと思う」

(会長)

「習慣的に、という捉え方でよいのか、それともイベントで飲まされたといったような捉え方？」

(事務局)

「飲酒は、月に1回以上、喫煙は毎日以上という生徒をカウントしている。習慣性がある、という捉え方」

(会長)

「重点的に高校生の現状を改善していきたいということであればよいと考える」

(委員)

「削除した場合、そのデータは調べていない、という風にとられるのではないか。0であるならば0と載せておけば、例えば彼らが高校生になった時にその数値と比較できる。あるとないとではだいぶ意味が違ってくる。」

(会長)

「賛成です。特に未成年の飲酒なので慎重に検討をお願いしたい。」

(委員)

「0だから今後は調べないということではないですよ？」

(事務局)

「今後も調査は行う予定。評価をしていく項目としてあるべきかという点を考えると、事務局としては目標には到達しているので、目標からははずす、ただ、現状としては今後も見ていくし、調査もやらないというわけではなく、同様に未成年に対しての教育・啓発はやっていく。方向を変える予定はない。」

(委員)

「評価はしっかりできているのだから、十分に評価できる状況であるという表現をすれば何%とか言う必要はないのではないか。」

(事務局)

「事務局としても非常に迷ったところ。委員のみなさまから意見をいただきまして、このまま飲酒については中学1年生男女、喫煙については未成年者、中高の指標は残す方向で検討していく」

(委員)

「若い世代の欠食について。P12には25～39歳の男性は4割近い人が朝食を欠食していると記載されている。P25にはグラフでは欠食率は20～39歳の男性は26.3%となっている。この違いはどこから出てくるのか」

(事務局)

「P12は、第二次食育計画最終評価における数値。P25は、P12とは違う年齢構成であり、こちらのほうが未成年、成人などライフステージをイメージしやすいと考えた。」

(委員)

「欠食率4割という数値を使って親世代に周知しても良いのか。どちらの数値を使えばよいのか。だいぶ開きがあるが。」

(事務局)

「紛らわしくて申し訳ありません。どちらを使っても間違いではない。」

(委員)

「家庭を持っている、家庭を持っていないということでも出てくる数字だと思う。そういう統計はあるか。」

(事務局)

「年代と男女別でしか統計を取っていない。家族構成については確認はしていない。」

(玉井委員)

「先ほどもあったが、指導する側もそういった統計があればがまた違ってくるのではな  
いか」

(会長)

「庁内委員会というものはどのような組織か。どのような規模でやっているのか。」

(事務局)

「保健福祉部長を委員長として、関係する各課の課長級で構成している。関係課は全部  
で20あるが、現在審議している計画の素案にも参画いただいている。食育と健康づく  
りという2つの視点で関係する課となっている。」

「市の取り組みは具体的なイメージがしづらいと思われる。取り組みの指針に従って具  
体的にどのような事業をしていくかについてはまたこの審議会でお示ししながら進め  
ていく。あるいは委員会で検討したものは審議会に提示したり、審議会でご要望いた  
いたものは推進委員会へフィードバックしていく。そして各課で新しいものを拡大縮小  
したりの繰り返しをしていく。こうしてPDCAで回していく。」

(会長)

「パブリックコメントについて。各団体へは何かお願いはするのか。」

(事務局)

「各団体へ、というのは考えていないが、推進市民の会の皆様には計画の素案を見て  
いただき、それぞれの団体の皆様にもお伝えしていただく」

(会長)

「健康と食に関する計画ですので、非常に関心が高いと思われるのでコメントが集まら  
ないのはよろしくない。審議会の委員のみなさまにも関係各位に広報をお願いします。」

(委員)

「WEBで閲覧することは可能なのか？保健所や行政資料コーナーへ足を運ばないと目  
を通すことはできないのか。」

(事務局)

「市のホームページからも素案を閲覧することはできる。メールで意見・提案するこ  
ともできる。」

(会長)

「記者会見について。長野市の定例記者会見か。」

(事務局)

「定例記者会見を予定しているが、広報広聴課と調整中。」